

「みえ高齢者元気・かがやきプラン」の状況

「みえ高齢者元気・かがやきプラン」(第8期:令和3年度～令和5年度)

参考資料1

＜めざすべき方向＞

地域の実情に応じて、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、予防、住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」のさらなる深化・推進に取り組むことで、地域共生社会の実現を図ります。

取組体系	主な内容	指標名	8期計画策定時	R4分科会時	R5分科会時	現状値	目標値	目標値に対する達成状況の評価(主な成果と課題)
1	介護サービス基盤の整備	特別養護老人ホーム(広域型・地域密着型)の整備定員数(累計)	10,586床 (令和元年度)	10,803床 (令和3年度)	10,882床 (令和4年度)	10,924床 (令和5年度)	11,384床 (令和5年度)	施設整備は一定進んだが、施設整備計画の応募数が計画数に達せず、目標値の達成は非常に厳しい状況である。整備計画の応募数が計画数に達しなかった要因としては、建設資材価格の高騰等による建設費用の増大や介護人材の確保が課題となっていることが考えられる。
2	地域包括ケアシステム推進のための支援	通いの場に参加する高齢者の割合	6.8% (令和元年度)	3.7% (令和2年度)	3.4% (令和3年度)	速報値:6.0% (令和5年度)	8.0% (令和5年度)	新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止した通いの場が生じ、令和元年度から令和2年度にかけて全国的に参加率が大幅に減少し、令和2年度から令和4年度にかけては足踏み状態が続いていたものの、令和5年度からは持ち直しの傾向がみられた。令和5年度以降は活動を再開する通いの場が増えているものの、リーダーの担い手不足からそのまま消滅してしまう通いの場もあり、通いの場におけるリーダーの担い手不足等が課題となっていることから、目標値には到達しなかった。引き続き、市町等向けの研修会・意見交換会の開催等により、高齢者の社会参加促進に関して支援していく。
3	認知症施策の推進	認知症サポーター数(累計)	204,996人 (令和2年12月末)	215,581人 (令和3年度)	229,346人 (令和4年度)	242,843人 (令和5年度)	235,000人 (令和5年度)	令和5年度も、認知症サポーターの養成を着実に進め、目標値を達成することができた。引き続き、サポーターやキャラバンメイトの養成を進めるとともに、サポーターを認知症の人やその家族のニーズにつなげる「チームオレンジ」の構築を支援していく。
4	安全安心のまちづくり	成年後見制度利用促進の市町計画を策定した市町数	7市町 (令和元年度)	19市町 (令和3年度)	19市町 (令和4年度)	21市町 (令和5年度)	29市町 (令和5年度)	成年後見制度利用促進市町支援事業による市町へのアドバイザー派遣、市町等向けの研修会及び関係機関による意見交換会を開催することにより、市町の計画策定や中核機関の設置の促進を図った。
5	介護人材の確保	県内の介護職員数	31,763人 (令和元年度)	32,285人 (令和2年度)	32,243人 (令和3年度)	32,584人 (令和4年度)	33,849人 (令和4年度)	介護人材を確保するため、県福祉人材センターによる無料職業紹介や、介護福祉士修学資金等の貸付を実施するとともに、介護未経験者を対象とした研修会の実施や、外国人材を対象とした奨学金の支給に係る事業所への支援を行った。また、地域医療介護総合確保基金を活用し、市町・介護関係団体等の取組支援や介護助手の普及に取り組むとともに、負担軽減・業務の効率化のため、介護ロボットやICTの導入促進に取り組んだ。これらの取組により、介護職員は増加したが、介護を必要とする高齢者が増加していく中、介護サービスを担う人材の不足は依然として解消していない。引き続き、市町や関係団体と連携し、多様な人材の新規参入・定着促進など総合的な確保対策に取り組む必要がある。
6	介護保険制度の円滑な運営と介護給付の適正化	介護給付適正化主要5事業すべてを実施している保険者の割合	92% (令和元年度)	76% (令和3年度)	76% (令和3年度)	84% (令和5年度)	100% (令和5年度)	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来実施していた事業の一部を休止した保険者があったため、令和3年度に介護給付適正化主要5事業すべてを実施した保険者は25保険者中19保険者となった。令和4年度以降は事業を再開している保険者が増えている。